

日本聖公会横浜教区 信徒神学校 第31期特別講演会（於：横浜聖アンデレ教会）

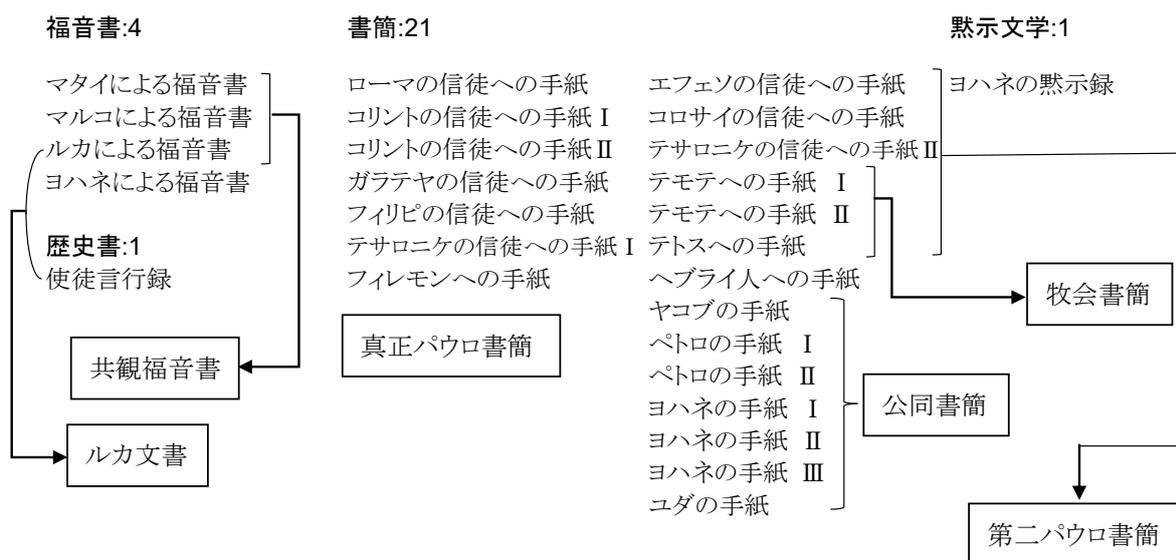
出来事としての福音書 語り継がれるイエス伝承の一断面

山野 貴彦（聖公会神学院専任教員）

概要：

福音書とはイエスにつき従った人々がイエスの死と復活および昇天を体験し、その後、彼をキリストと信じるに至った、その記憶の語り継ぎの中で徐々に形づくられていった書物であり、福音書に見られる御言葉は、一気に執筆されたものではありませんでした。
本講演では、当時の共同体に伝えられた物語や言葉が、どのように受け継がれ、解釈され、それぞれに個性を持つ四つの福音書に結実していったのかを、個別の物語や教えを参照しつつ概観します。歴史と信仰の証しとが交差する中で生まれた福音書を「出来事」として捉え、聖書からより豊かに学ぶための視点をご一緒に探ってゆきたいと思います。

新約聖書の構成



1. 福音書成立の前提

1.1.1. イエスの出来事とその後

紀元 30 年頃

ナザレのイエス（ユダヤ教イエス派）の活動

ガリラヤ（ことにガリラヤ湖周辺）で活動（30歳：ルカ 3:23）

十字架における死、その後の復活顕現、高举（昇天）

弟子たちの経験 — 「家の教会」におけるイエス受難の追憶

佐藤研「喪の作業」(『悲劇と福音』115頁など参照)

→ユダヤ教イエス・キリスト派の形成

1.1.2. ローマ帝国統治下のガリラヤとユダヤ

たびかさなる総督の横暴と傀儡のヘロデ家領主統治

ユダヤ人たちにとっての屈辱と苦しみの時代

不満の爆発→第一次ユダヤ戦争：紀元 66-73 年

(戦争後半の 70 年にエルサレム神殿が崩壊)

「神の家」の喪失、それでも終わらなかったこの世界

1.1.3. 「世の終わり」の遅延、弟子世代の死去、宗教的アイデンティティの問い 終末の到来が成就しないことへの疑問と答え

神の治めが世にゆきわたるまで人間の想いより多くの時間がかかる

キリストに信頼する者たちの、この世界での役割に対する省察

イエスに直接学んだ者たちの減少

十二弟子たちの死去

伝説ではペトロは紀元 60 年代にローマにて殉教——その歴史性についての議論はあるにせよ、十二弟子たちの歴史からの退場

使徒パウロもおそらくローマで死去

* ペトロやパウロの殉教については紀元 100 年頃に成立した著作クレメンスの手紙：コリントの信徒たちへ I 5 章に言及あり

→口伝から文書伝承への移行——イエス伝承については既に成立

ローマ帝国の「ユダヤ金庫」制度（フィスクス・ユダイクス Fiscus Judaicus）

ユダヤ人たちに対する新課税

エルサレム神殿に納めていた税金を、ローマ帝国の神殿への税金に変更する命令——支払えばユダヤ教徒のままであることを保証

→イエス・キリスト派からすれば無関係

既にユダヤ教はエルサレム神殿なき後の律法を軸とした新体制へ移行準備

エルサレム神殿における祭儀を重視していなかったイエス・キリスト派としては宗教思想において既に違和感

—— 他者からのアイデンティティに関する問いがこれを激化

→「律法と預言書」以外に、イエスをキリストと告白する自分たちのための文書所有の必要性浮上：イエス・キリストの地上における言行録作成の希求

2. 福音書の成立という出来事

2.1. 伝承の蒐集

2.1.1. イエス・キリスト派（原始キリスト教）の伝承

ナザレのイエスに遡る可能性が高いとされる伝承

神の治めの接近宣言（マルコ 1:14-15 並行 *洗礼者ヨハネとの関係性）

ゲツセマネ祈祷（マルコ 14:36 並行）：「アッパ」呼びかけ

アーメン用法：始めに「アーメン」を言う異例のパターン

受難伝承（マルコ 14-15 章並行）

イエスの復活と並ぶイエス・キリスト派の最古の伝承

復活告知伝承

空の墓における復活の告知：遺体不在の伝承～顕現伝承

イエス・キリスト宣教

エルサレムの共同体の宣教

ペトロ説教（使徒 2:22-36）

イエスの活動—十字架刑—神による復活—聖書成就—高举
創作演説というより、既存の宣教定式を編集したものか

共同体生活の要約

- 使徒 2:42 (教え、交わり、パン裂き、祈り) : 礼拝を背景とする文脈
- パウロ書簡に保存されている最初期伝承
 - 復活信仰の信条的定式 (I コリ 15:3-5)
 - 「わたしが受けたものを、あなたがたに伝えた」
 - 死、埋葬、復活、顕現が並ぶ、原始信仰告白の核心
 - キリスト賛歌 (フィリ 2:6-11) : パウロ以前の礼拝賛歌
 - キリストの低みと高みに注目した構造と神讃美
 - ダビデ系譜 (ローマ 1:3-4)
 - ダビデの子孫としてのイエス
 - 復活による神の子の宣言という対照構造——信仰定式
 - 最初期聖餐伝承 (I コリ 11:23-25) cf. 共観福音書伝承(マルコ、マタイ、ルカ)
 - 「主から受けた」
 - 聖餐に関する最古の伝承
 - 離婚再婚批判伝承も近似 (I コリ 7:1-16)
 - アラム語の保存 (I コリ 16:22)
 - マラナ・タ : 実際に礼拝などで用いられていた可能性大

2.1.2. 福音書成立への経緯 : 伝承の蒐集へ

神の子イエス・キリスト、救い主の伝承

- | | |
|----------|------------------------|
| 受難物語 | エルサレム入城から十字架の出来事、埋葬まで |
| 復活・顕現物語 | 空の墓、墓にいた者による女性たちへの復活宣言 |
| 誕生伝承 | 乙女マリアへの出来事、ダビデ家系の父ヨセフ |
| 本質・神話的伝承 | 苦難のしもべ、始源のロゴス、父と子、子と聖霊 |

ガリラヤ湖周辺伝承

奇跡伝承

癒し、悪霊・穢霊追放、食糧提供、湖の凪化

教え伝承→とくに教説的なものはイエスの語録資料 (Q 文書) として文書化
譬物語、論争物語、教令物語 (山上の説教・平野の説教など)

個別伝承

ザカリアとエリサベト、洗礼者ヨハネ、十二弟子、マグダラのマリア
マルタとマリア、ラザロ、ニコデモ、アリマタヤのヨセフ

ガリラヤ全体ではナザレ、カナ (しるし資料)、ナインなどごくわずか

⇒ これらを福音書記者自らが取材して収集あるいはユダヤ戦争で難民化した人々 (とくにガリラヤ、ことにガリラヤ湖周辺地域の人々やユダヤまでイエスにつき従った人々) による伝達・報告

⇒ マルコによる福音書の成立へ

2.2. 四福音書の成立

最古の福音書 : 成立としては紀元 70 年頃のマルコによる福音書

ただし、聖書のどの文書にも原本は存在していない

残存している最古の写本 : 紀元 200 年頃のヨハネによる福音書断片 (p⁶⁶)

「～による福音 (書)」という記載が見られる最古の情報

——その後、四世紀に至るまで、わずかなパピルス文書 (p⁷²:3-4 世紀のペトロの手紙 I / II、ユダの手紙の表題) 以外に文書名をつける伝統なし

2.2.1. マルコによる福音書

2.2.1.1. 著者

伝説によれば使徒ペトロの通訳マルコ

(フィレ 24; 使徒 12:12, 25, 15:37-40; コロ 4:10; II テモ 4:11; I ペト 5:13)

ユダヤ教の流れもわずかに組む異邦人キリスト者

2.2.1.2. 成立年代・成立地

紀元 70 年代 (エルサレム陥落・神殿崩壊後) 説が有力 (佐藤、原口、上村)

40 年代説 (トロクメ)、50 年代説 (田川)、60 年代説 (過去多数)

アラム語・ヘブライ語も比較的通用する北レヴァント地域

2.2.1.3. 資料

- ・ 受難物語
- ・ 空の墓物語
- ・ 奇跡物語
- ・ 論争物語
- ・ たとえ話
- ・ イエスの本質伝承：苦難のしもべ

2.2.1.4. 思想的特徴：編集史的研究 (E. ローマイヤー、W. マルクスセンの研究など)

- ・ ガリラヤにおけるイエスのわざと権威ある教え
- ・ 強大な権力への逆説的批判者
- ・ イエスへの信 (必死の願い) における奇跡
- ・ 弟子の無理解
- ・ 苦難のしもべとメシアの秘密
- ・ イエスの地ガリラヤ (湖) と受難の地エルサレム

2.2.2. マタイによる福音書 (G. ボルンカムの研究など、前史として B. W. ベイコンの研究も)

2.2.2.1. 著者

伝説によればイエスの弟子マタイ

マタイ 9:9, 10:2-4; マルコ 3:16-18; ルカ 6:13-16; 使徒 1:13

イエス十二弟子の一人として名前が挙がる

マタイ福音書のみ、マタイの職業が徴税人であったと記す

ユダヤ教に深く根ざした教育を受けた異邦人出身キリスト者

2.2.2.2. 成立年代・成立地

紀元 80 年代

ユダヤ教に通じた人々が少なくない、北レヴァント地域

2.2.2.3. 資料

- ・ マルコ福音書
- ・ Q 文書
- ・ マタイ特殊資料
- ・ 旧約聖書引用・解釈伝統

2.2.2.4. 思想的特徴

- ・律法の完成者としてのイエス
- ・教会共同体意識と倫理の重視
- ・共同体のアイデンティティ確立
 - ユダヤ教から分離しつつあるキリスト者共同体の自己定義
- ・終末論と実践倫理の結合

2.2.3. ルカによる福音書

2.2.3.1. 著者

伝説によれば使徒パウロの協働者である医師ルカ

フィレ 24; コロ 4:14; IIテモテ 4:11

真正パウロ書簡の中ではフィレモンへの手紙においてのみであるが、第二パウロ書簡のコロサイの信徒への手紙およびテモテへの手紙IIにおいてもパウロの同労者であることが言及されている

高度なヘレニズム教育を経験した異邦人キリスト者

歴史記述、修辞学、七十人訳聖書のギリシャ語文法などに通じる

2.2.3.2. 成立年代・成立地

紀元 80-90 年代：ローマとの関係構築模索

ヘレニズム文化圏の都市（ローマ？アレクサンドリア？アンティオキア？）

2.2.3.3. 資料

- ・マルコ福音書
- ・Q 文書
- ・ルカ特殊資料（誕生物語ほか）

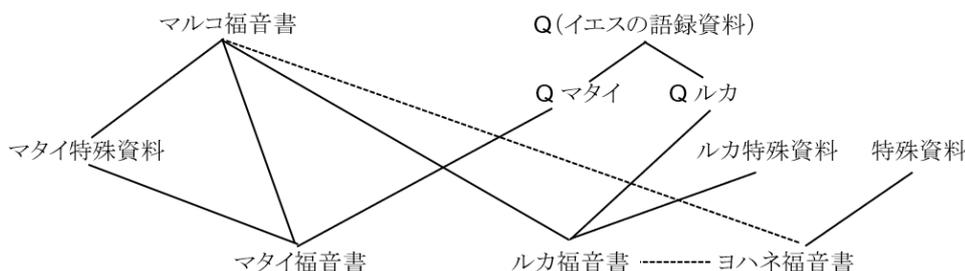
2.2.3.4. 思想的特徴：編集史的研究（H. コンツェルマンの研究『時の中心』）

- ・普遍史的救済理解：神の歴史における異邦人にまで至る救済（「救済史」）
- ・貧者・周縁者への配慮
- ・教会の時代への移行
- ・聖霊と祈りの強調

補遺：共観福音書

マルコ、マタイ、ルカによる福音書は「共」に「観」ることが可能であることから、「共観」（synopsis: ギリシャ語 σύν 「共に」 + ὄψις 「見ること」「観点」「面」「顔」）福音書と 18 世紀以来呼ばれている

共観福音書およびヨハネ福音書相関図



2.2.4. ヨハネによる福音書

2.2.4.1. 著者

伝説によればイエスの弟子ヨハネ

ただしヨハネによる福音書のみ、ゼベダイの子ヤコブとヨハネの名前が具体的に言及されていない

作品中では「主に愛された弟子」の作とされる

ヨハネのことか別人か、そもそも実在の人物かどうか不明とされる

一人の執筆ではなく複数人の手による共同体的著作

2.2.4.2. 成立年代・成立地

紀元 90 年代：ユダヤ教との対立が明確化

小アジア（エフェソ周辺？）

2.2.4.3. 資料

- ・ヨハネ特殊資料伝承

- ・しるし物語

- ・賛歌的素材（序文など）

共観福音書との直接的な連関は認められない

2.2.4.5. 思想的特徴（W. ブセット、R. ブルトマンら先駆的研究から）

- ・高いキリスト論（ロゴス・受肉）

- ・二元論的世界観（光と闇、生と死）

- ・信仰による現在の終末論・救済論

- ・共同体内部の自己理解の深化

- ・伝統的終末論の内面化

3. 四つの福音書、一つの福音

福音書の通読から見えてくること

3.1. 表題としての序

それぞれの福音書はどのような始まり方をしているか

マルコ：表題～預言の成就：洗礼者ヨハネの登場～イエスの受洗

マタイ：系譜～ヨセフへの天使のお告げとイエスの誕生

ルカ：献辞～洗礼者ヨハネの誕生予告（ザカリア）～イエスの誕生予告（マリア）

ヨハネ：ロゴス讃歌～洗礼者ヨハネの証し

古代より序章がその書物の特徴を示す伝統（例：旧約聖書各文書の書名と冒頭の言葉）

古代の教父たちによって「四つの福音書、一つの福音」の神学が構築される際に、それぞれの福音書の始まり方が参照されている

————— それぞれの福音書に固有の内容 —————

3.2. 福音書神学の結晶としての終幕

それぞれの福音書はどのような終わり方をしているか

マルコ：空の墓における復活宣言～ガリラヤへ先に行かれるイエス～女性陣の沈黙

マタイ：山での大宣教命令

ルカ：天からの力の降下の約束～昇天（高举）

ヨハネ：弟子たちへの顕現と後書き（20章）

弟子たちへの顕現、ペトロと愛した弟子への顕現および後書き（21章）

3.3. 歴史のイエスと信仰のキリスト

歴史におけるナザレのイエスの出来事に関する伝承

→イエスがメシア＝キリストであったことを告白する福音書に

ナザレのイエスの歴史の出来事とそれを信仰と神学で示す福音書の出来事が、

読み祈りはたらくわたしたちの中で新たなキリスト教の伝承・宣教・伝道の出来事となる

総括：出来事となる聖書学的な読みと信仰のさらなる醸成へ

聖書学的な聖書への接近

- 信仰に対する人間の全知性を以て聖書に耳を傾けようとする行為
 - 人間の内奥にかかわるがゆえに、ときに時代の風潮や自分自身の傲慢さを反映するイデオロギーになりかねない
- ⇒ 神からの愛や恵みを感謝と真摯さを以て受け止めることを支援する
- 多種多様な価値観をも認める懐の深さと真摯な学問的および信仰的行為
 - 将来のキリスト教徒たちを迎え入れようという方向性を示している

聖書の学びは信仰を破壊する試みではなく、むしろ信仰に挑戦することによって信仰へと
いざなう出来事であり続ける

共観表（佐藤研『福音書共観表』より）

No. 1 [1]. 序

マタイ 1:1	マルコ 1:1	ルカ 1:1-4
<p>Mt1:1 アブラハムの子、 ダビデの子、イエス・キリスト の誕生の記録。</p>	<p>Mk1:1 [神の子]「イエス・キリストの 福音」の源。</p>	<p>Lk1:1a 私どものもとで成し遂げられ た〔さまざま〕事柄について、 Lk1:2 源からの目撃者たちと御言 葉に仕えるに至った者たちとが私ども に伝えました通りに、 Lk1:1b 物語り連ねようと多くの人々 が手を染めましたが、 Lk1:3 この私もまたすべてを詳さに 調べましたので、テオフィロス閣下よ、 あなた様に順序立てて叙述申し上げ るべきであると思ひなし、 Lk1:4 それによって、これまで学ば れた〔もろもろの〕言辞のたしかであ ることをご確認なさいますように〔と、 お願い申し上げる次第であります〕。</p>
<p>[ヨハネ 1:1] Jh1:1 源に、言葉がいた。言葉は、神のもとにいた。言葉は、神であった。 Jh1:2 この者は、源に神のもとにいた。</p>		

No. 2 [13]. バプテスマのヨハネの活動

マタイ 3:1-6	マルコ 1:2-6	ルカ 3:1-6
<p>Mt11:10 この者こそ、〔こう〕 書かれている者である、 「見よ、 この私がお前の面前に 私の使者を遣わす。 彼はお前の〔目の〕前で、 お前の道を整えるであろう。」</p>	<p>Mk1:2 預言者イザヤ〔の書に次のよ う〕に書いてある—— 「見よ、 私はお前の面前に 私の使者を遣わす。 彼は お前の道を整えるであろう。 Mk1:3 荒野で呼ばれる者の声—— 『お前たち、主の道を備えよ。 彼の小径を直くせよ』。</p>	<p>Lk7:27 この者こそ、〔こう〕 書かれている者だ、 「見よ、 私はお前の面前に 私の使者を遣わす。 彼はお前の〔目の〕前で、 お前の道を整えるであろう。」</p>
<p>Mt3:1 さてその頃、</p>		<p>Lk3:1 さて、カエサル・ティベリウ ス在位の第十五年、ポンティウス・ ピラトゥスユダヤの総督そしてヘロ デスがガリラヤの四分封領主、またそ</p>
<p>バプテスマの 浸礼者ヨハネが現れ、 ユダヤの荒野で宣教して</p>	<p>この〔言葉の〕ように、 Mk1:4 浸礼を施す〔者〕ヨハネが 荒野に 現れ、</p>	<p>の兄弟フィリッポスイトゥリアとト ラコニティスとの地方の四分封領 主、そしてリュサニアスがアビレネ の四分封領主、 Lk3:2 アンナスとカヤファが大祭 司であった時節、神の言葉が荒野に てザカリヤの子ヨハネに臨んだ。</p>

[ヨハネ 1:6]

Jh1:6 神のもとから遣わされた一人の人が現れた。その名はヨハネ [であった]。

Mt3:2 [そして] 言う、
「回心せよ。
天の王国が近づいたから」。

Mt3:3 まさにこの者こそ、
預言者イザヤを通して語られた者である、すなわち、

「荒野で呼ばれる者の声——
『お前たち、主の道を備えよ。
彼の小径を直くせよ』」。

[ヨハネ 1:23]

Jh1:23 彼は言った、「私は荒野で呼ばれる者の声 [である]、『お前たち、主の道を直くせよ』と——預言者イザヤが言ったように」。

Mt3:4 また、このヨハネは、らくだの毛ごろもから作られた着物を着、その腰には皮の帯を締めていた。また彼の糧はいなごと野蜜であった。

Mt3:5 そのとき、エルサレムとユダヤの全土とヨルダン〔河〕全流域〔の人々〕が彼のもとへ出て行き、

Mt3:6 自らの [もろもろの] 罪を告白しながら、ヨルダン河の中で彼から浸礼を受けていた。

Mt3:4 また、このヨハネは、らくだの毛ごろもから作られた着物を着、その腰には皮の帯を締めていた。また彼の糧はいなごと野蜜であった。

[もろもろの] 罪の赦しとなる回心の浸礼を宣べ伝えていた。

Mk1:3 荒野で呼ばれる者の声——
『お前たち、主の道を備えよ。
彼の小径を直くせよ』」。

Mk1:6 そしてヨハネはらくだの毛ごろもを着、その腰には皮の帯を締め、いなごと野蜜とを食べていた。

Mk1:5 そして、ユダヤの全地方とエルサレムの全住民とが彼のもとへ出て行き、

自らの [もろもろの] 罪を告白しながら、ヨルダン河の中で彼から浸礼を受けていた。

Mk1:6 そしてヨハネはらくだの毛ごろもを着、その腰には皮の帯を締め、いなごと野蜜とを食べていた。

Lk3:3 そこで彼は、ヨルダン河流域一帯へ行き、

[もろもろの] 罪の赦しとなる悔い改めの浸礼を宣べ伝えていた。

Lk3:4 [これは] 預言者イザヤの言葉の書に書かれてある通り [であった] ——

「荒野で呼ばれる者の声——
『お前たち、主の道を備えよ。
彼の小径を直くせよ』」。

Lk3:5 あらゆる谷は埋められ、あらゆる山と丘とは低くされるであろう。

また、曲がったものは直くされ、凹凸おうつの激しい〔道々〕は平らな路とされるであろう。

Lk3:6 そして、あらゆる肉〔なるもの〕は、神の救いを見るであろう』」。

No. 96 [185] 主の祈り

マタイ 6:9-13	マルコ	ルカ 11:1-4
<p>Mt6-9 だからあなたたちは、このように<u>祈れ</u>。</p> <p>『天におられる私たちの 父よ、 あなたの名が聖なるものとされますように。 Mt6-10 あなたの王国が来ますように。 あなたの意思が成りますように、 天にあるように、地においても。 Mt6-11 私たちに必要なパンを、今日私たちに<u>お与え下さい</u>。 Mt6-12 また、私たちの [もろもろの] 負債を<u>お赦し下さい</u>。 私たちに負債ある者たちを、私たちも<u>赦しましたよ</u>うに。 Mt6-13 そして、私たちを試みに<u>遭わせず</u>、 私たちを悪からお救い下さい』。</p>		<p>Lk11:1 また、[以下のようなことが] 生じた、[すなわち] 彼がある場所で祈っていた際のことである。彼が祈りを中断した時、その弟子のある者が彼に対して言った、「主よ、私たちに祈るすべを教えてください。ヨハネも、その弟子たちに教えましたように」。</p> <p>Lk11:2 そこで彼は彼らに言った、「あなたたちが<u>祈る</u>時は、[こう] 言いなさい、</p> <p>『父よ、 あなたの名が聖なるものとされますように。 あなたの王国が来ますように。 Lk11:3 私たちに必要なパンを、日々私たちに<u>与えて下さい</u>。 Lk11:4 また、私たちの [もろもろの] 罪を<u>お赦し下さい</u>。 私たちに負債ある者をことごとく、私たち自身も<u>赦します</u>から。 そして、私たちを試みに<u>遭わせないで下さい</u>』。</p>

No. 123 [219]. 失われた羊の譬

マタイ 18:12-14	マルコ	ルカ 15:1-7
<p>Mt18:12 あなたたちはどう思うか。 もしある人に百匹の羊がいて、そのうちの一匹が さ迷い出たら、 彼は九十九匹を山に放っておき、 進んで行って、さ迷い出た一匹を 探さないであろうか。 Mt18:13 そして、もしそれを見い出したとなれば、 アーメン、 私はあなたたちに言う、 さ迷い出てしまわなかった九十九匹よりも、 むしろその一匹のゆえに、彼は喜ぶ。 Mt18:14 このように、これらの小さい者たちのうち の一人でも滅ぶことは、天におられるあなたたちの 父の意思ではない。</p>		<p>Lk15:1 さて、すべての徴税人と罪人とが、彼〔の言葉〕 を聞くために、彼に近づいて来た。 Lk15:2 するとファリサイ人たちと律法学者たちと は、つぶやき出して言った、「こいつは罪人どもを受け 入れ、彼らと一緒に食事をしている」。 Lk15:3 するとイエスは彼らに対して次の譬を語り、 言った、 Lk15:4 「あなたたちのうちの 誰かが百匹の羊を持っていて、そのうちの一匹を 失ってしまったとしたら、 九十九匹を荒野に打ち棄てて、 失われてしまったその〔一匹〕が見つかるまで、 それを求めて進んで行かないだろうか。 Lk15:5 そして見つけたら、喜びのあまり〔それを〕 自分の肩の上にかつぎ Lk15:6 家の中に入るや、友人たちと近隣の者たち を呼び集め、彼らに言う、『私と一緒に喜んでくれ。 失われてしまっていた私の羊を、見つけたのだから』。 Lk15:7 私はあなたたちに言う、 改心する必要のない九十九人の義人たちよりも、 改心する一人の罪人のゆえに、 天においてはこのように喜びがあるだろう。</p>
<p>[トマス 107] EvTh107 (1) イエスが言った、「王国は百匹の羊を持つ 羊飼のようなものである。(2) それらの中の一匹、最大 の羊が迷い出た。その人は九十九匹を残しても、それ を見つけるまで、一匹を探した。(3) 彼は苦しみの果てに 羊に言った、『私は九十九匹以上にお前を愛する』と」。</p>		<p>Lk15:8 あるいは、十ドラクマを持っている女が、一 ドラクマを失ったら、ともし火をつけ、家〔の中〕を 掃いて、見つけるまで丹念に探さないだろうか。 Lk15:9 そして見つけたら、女友だちや近隣の者たち を呼び集め、彼らに言う、『私と一緒に喜んで下さい。 失ってしまった一ドラクマを、見つけたのです から』。 Lk15:10 私はあなたたちに言う、改心する一人の罪 人のゆえに、神の御使いたちの面前ではこのような 喜びが生まれる」。</p>

No. 164 [306] 塗油

マタイ 26:6-13	マルコ 14:3-9	ルカ 7:36-50
<p>Mt26:6 ところで、イエスが ベタニアでらい病人シモン[*]の家に いた時、</p> <p style="text-align: right;">*Cf. Lk7:40.</p> <p>Mt26:7 高価な 香油の入った石膏の壺を持った 一人の女が彼に近寄って来た。そして、 〔食事の席で〕横になっている彼の頭 の上に〔香油を〕注ぐのであった。</p>	<p>Mk14:3 さて、彼が ベタニアでらい病人シモン[*]の家に いた時、 〔食事の座に〕横になっていると、</p> <p>きわめて高い値の、純正のナルド 香油の入った石膏の壺を持った 一人の女がやって来た。そして、その 石膏の壺を砕き、彼の頭に〔香油を〕 注ぐのであった。</p>	<p>Lk7:36 さて、ファリサイ人^{びと}たちのある 者が、自分と共に食事をしてくれる ようにと、イエスに頼んだ。そこでイ エスは、そのファリサイ人^{びと}の家に入り、 〔食事の座に〕横たわっていた。</p> <p>Lk7:37 すると見よ、 その町で罪人であった 一人の女が、彼がそのファリサイ人^{びと} の家で〔食事の座に〕横になっていると 知り、香油の〔入った〕石膏の壺を持 って来て、</p>
<p>[ヨハネ 12:1-3]</p> <p>Jh12:1 さて、過越祭の六日前、イエスはベタニアに 来た。イエスが死人の中から起こしたラザロのいた ところである。Jh12:2 ここで〔人々は〕彼のた めに食事〔の席〕を設けた。マルタが給仕し、ラザ ロは彼と共に〔席で〕横になっている人々の一人 であった。Jh12:3 さて、マリヤムが純粋で高 価なナルド香油と一リトラを取ってイエスの足に 注ぎ、自分の髪でその足を拭いた。家は香油の 香りで満たされた。</p>		
<p>Mt26:8 しかし弟子たちは〔これを〕 見て〔激しく〕怒って 言った、</p>	<p>Mk14:4 すると幾人かの者がお互いの 間で〔激しく〕怒った、</p>	<p>Lk7:39 しかし彼を招待した例のファ リサイ人^{びと}は〔これを〕見て、自分の中 で言った、</p>
<p>「何のために このように無駄遣い〔をするのだ〕。 Mt26:9 これを 高く売って 乞食たちに与えてやることもできたの に」。</p> <p>Mt26:10 しかしイエスは〔これを〕知 って、彼らに言った、</p> <p>「なぜこの女性を困らせるのか。 実は、私に対して良いことをなして くれたのである。 Mt26:11 そもそも、乞食たちはいつも あなたたち共にいる。 しかし私は、いつまでもあなたたちの もとにいるわけではない」。</p>	<p>「何のために香油を このように無駄遣いしたのか。 Mk14:5 この香油は 三百デナリオン以上の値段で売って、 乞食たちに与えてやることもできた というのに」。</p> <p>そして彼らは、彼女に対して激しく息 巻くのであった。 Mk14:6 しかしイエスは 言った、 「この女をそのままにさせておくの だ。なぜこの女を困らせるのか。 私に良いことをなして くれたのだ。 Mk14:7 そもそも、乞食たちはいつも あなたたちと共におり、あなたたちは いつでも望む時に彼らに尽くしてやる ことができる。 しかし私は、いつまでもあなたたちの もとにいるわけではない」。</p>	<p>「万が一にもこの人が預言者であった なら、自分に触っているこの女が誰で、 どんな類の女が知り得たらうに。〔この 女は〕罪人なのだ」。</p> <p>Lk7:40 するとイエスは答えて、 彼に対して言った、</p>

た、「あなたの判断は正しい」。

Lk7:44 そこで彼は、例の女の方を振り返り、シモンに言った、「あなたにはこの女性が目に入るか。私はあなたの家に入って来たが、あなたは両足にかける水を私にくれなかった。しかしこの女は、涙で私の両足を濡らしてくれ、その髪の毛で拭いてくれた。

Lk7:45 あなたは、私に接吻してくれなかった。しかしこの女は、私が入って来た時から私の両足に接吻するのを止めようとしな。

Lk7:46 あなたは私の頭をオリーブ油で拭いてはくれなかった。しかしこの女は、香油で私の両足を拭いてくれた。

Lk7:47 このために、私はあなたに言う、この女の罪は、[たとえ] 多く[とも] 赦されている。[それは、] この女が多く愛したことから[わかる]。少ししか赦されない者は、少ししか愛さないものだ」。

Lk7:48 そこで彼は彼女に言った、「あなたの罪は赦されている」。

Lk7:49 すると、一緒に[食事の席で]横になっていた者たちが自分たちの中で言い始めた、「罪すらをも赦すとは、この者はいったい誰だろう」。

Lk7:50 すると彼はその女に対して言った、「あなたの信[頼]が[今]あなたを救ったのです。安らかに歩んで行きなさい」。

十字架上の言葉

<p>Mt27:46 また、第九刻頃に、イエスは大声を上げて叫び、言った、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」。</p> <p>これは、 「わが神よ、わが神よ、なぜ私をお見棄てになったのか」、という意味である。</p> <p>Mt27:47 そこで、そこに立っていた者のうち何人かが、これを聞いて言い出した、 「こいつはエリヤを呼んでいるぞ」。</p> <p>Mt27:48 すると、すぐさま彼らの一人が走って行き、そして海綿をとって酢で満たした後、罎〔の先〕につけ、彼に飲まそうとした。</p> <p>Mt27:49 しかしほかの者たちが言った、「やめろ。エリヤがやって来てこいつを救うかどうか、見てやることにしよう」。</p> <p>Mt27:50 しかしイエスは、再び大声で叫びながら、息を引き取った。</p> <p>Mt27:51 すると見よ、神殿の幕が上から下まで、真っ二つに裂けた。</p> <p>Mt27:52 そしてまた、〔さまざまな〕墓が開き、眠っていた聖人たちの多くの体が起こされた。</p>	<p>Mk15:34 そして第九刻に、イエスは大声で叫んだ、 「エロイ、エロイ、レマ、サバクタニ」。</p> <p>これは訳せば、 「わが神、わが神、どうして私をお見棄てになったのか」、という意味である。</p> <p>Mk15:35 すると、かたわらに立っていた者のうち何人かが、これを聞いて言い出した、 「見ろ、エリヤを呼んでいるぞ」。</p> <p>Mk15:36 そこである者が走って行き、〔そして〕海綿を酢で充たした後、 罎〔の先〕につけ、彼に飲まそうとして</p> <p>言った、「さあ、エリヤがこいつを降ろしにやって来るかどうか、見てやろうではないか」。</p> <p>Mk15:37 しかしイエスは、大声を放って 息絶えた。</p> <p>Mk15:38 すると 神殿の幕が上から下まで、真っ二つに裂けた。</p>	<p>-----</p> <p>Lk23:36 また、兵士たちも彼をなぶりものにし、近寄って来て 酢を 彼に差し出し、 -----</p> <p>Lk23:46 するとイエスは、 大声をあげて言った、「父よ、あなたの両手に、私の霊を委ねます」。そしてこれを言った後、彼は息絶えた。 -----</p> <p>Lk23:45 太陽が光を失ったのである。また、神殿の幕が真ん中から裂けた。 -----</p>
<p>Mt27:53 そして彼らは、イエスの起こされた後、墓から出て聖都に入り、多くの人に現れた。</p> <p>Mt27:54 また、百人隊長と、彼と共にイエスを見張っていた者たちとは、地震と〔さまざまな〕出来事とを見てはなはだしく恐れ、言った、 「ほんとうに、この者は神の子だった」。</p>	<p>Mk15:39 また、彼に向かい合って立っていた百人隊長は、彼がこのようにして息絶えたのを見て言った、 「ほんとうに、この人間こそ、神の子だった」。</p>	<p>Lk23:47 また、百人隊長は、起こったことを 見て神を賛美して言った、 「まことに、この人間こそ、義人だった」。</p> <p>Lk23:48 また、この光景を見ようと集まって来ていた群衆は皆、起こったことを見やり、胸を打ちつつ帰って行った。</p>
<p>[ヨハネ 19:28-29]</p> <p>Jh19:28 この後、イエスは聖書が成就されるためには、すでに万事が成し遂げられたことがわかったので言う、「渴く」。Jh19:29 酢を満たした器が置いてあった。それで、〔人々は〕その酢をたっぷり含ませた海綿をヒソブの枝に巻きつけて、彼の口のところに差し出した。Jh19:30 酢を受けるとイエスは「成し遂げられた」と言った。そして、頭を傾けて、霊を引き渡した。</p>		